

京浜港における取組状況

2025年 1月 31日



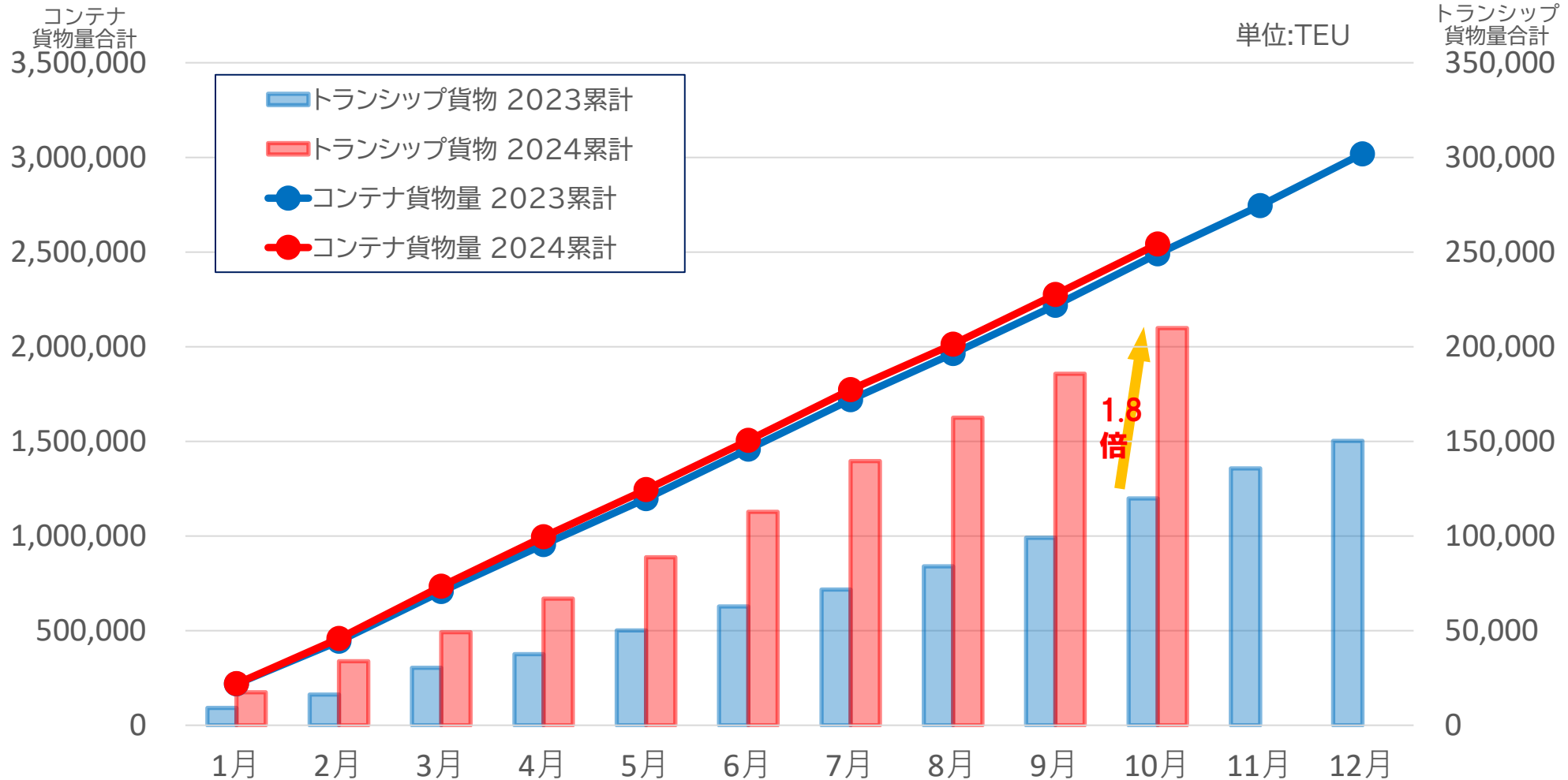
横浜川崎国際港湾株式会社

1. 最近の貨物取扱や集貨施策等の実施状況

(1) 横浜港のコンテナ貨物量（外内貿計）及びトランシップコンテナ貨物量

- ・ 2024年10月までの横浜港のコンテナ貨物量（外内貿計）は、累計で約5万TEU上回っている（前年比102%）
- ・ 特にトランシップコンテナ貨物量の伸びが顕著で、昨年比べて約9万TEU上回っている（前年比175%）

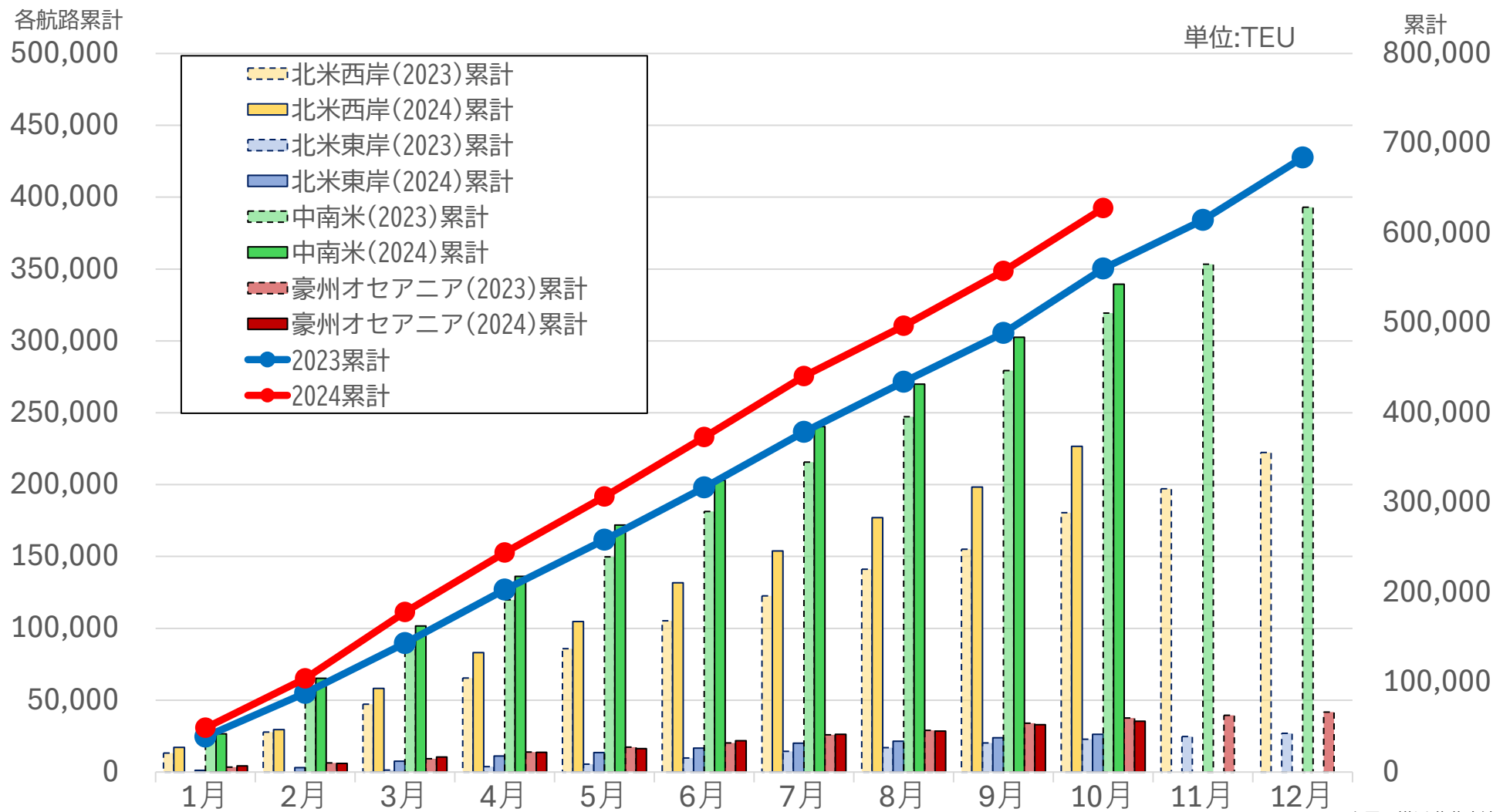
※貨物全体におけるT/S比率 2023年4.8%⇒2024年8.3%



1. 最近の貨物取扱や集貨施策等の実施状況

(2) 横浜港基幹航路のコンテナ貨物量

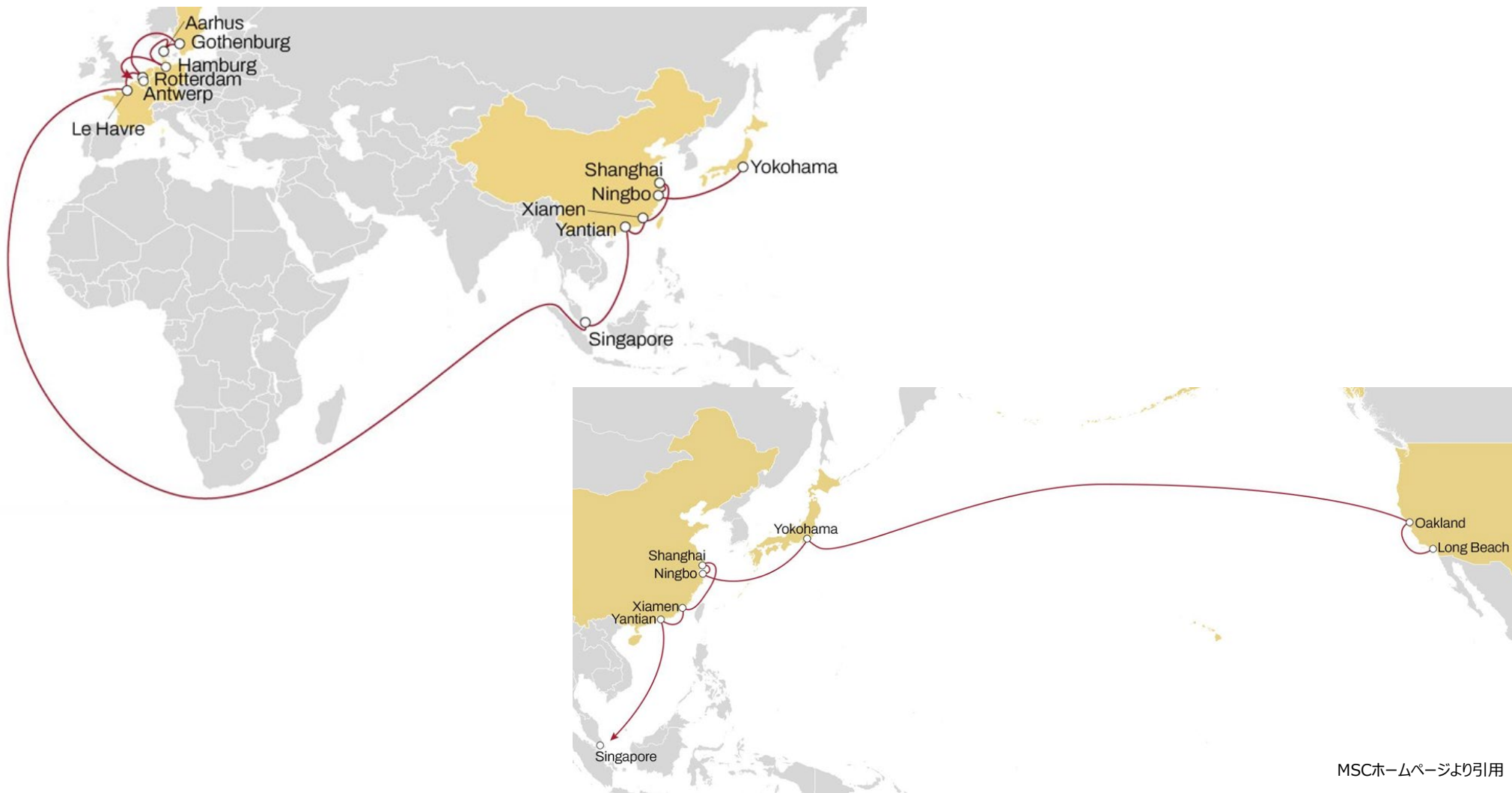
- ・ 2024年10月までの基幹航路のコンテナ貨物量は、累計で前年を約7万TEU上回っている(前年比112%)
- ・ 特に北米西岸航路(前年比126%)、北米東岸航路(前年比115%)や中南米航路(前年比106%)の増加率が高い



1. 最近の貨物取扱や集貨施策等の実施状況

(3) 横浜港基幹航路の開設の動き

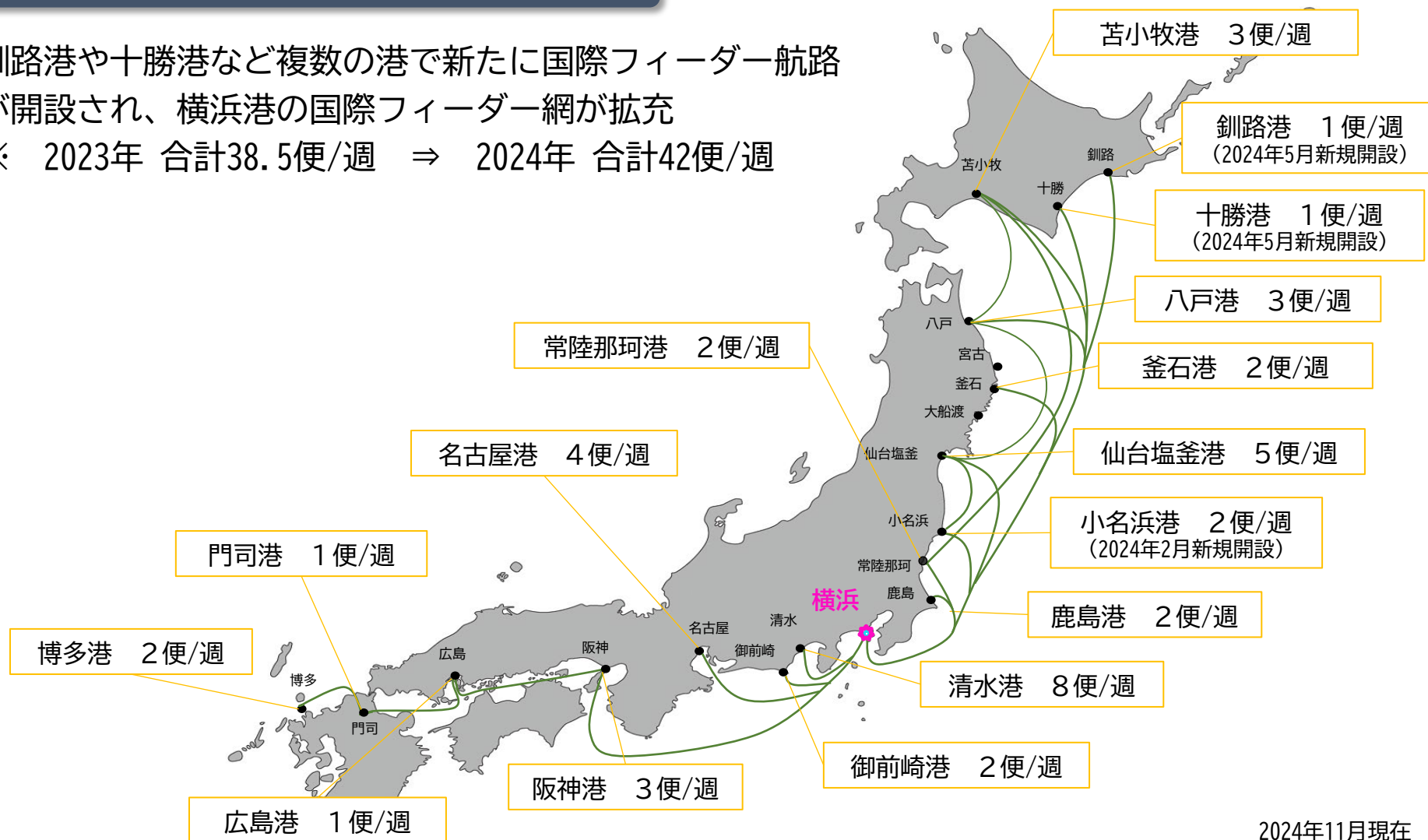
- ・ 2024年11月、MSCが2025年開始予定の欧州及び北米航路サービスにて、横浜港寄港を追加することをホームページで公表



1. 最近の貨物取扱や集貨施策等の実施状況

横浜港に寄港する国際フィーダー航路

- ・ 釧路港や十勝港など複数の港で新たに国際フィーダー航路が開設され、横浜港の国際フィーダー網が拡充
- ※ 2023年 合計38.5便/週 ⇒ 2024年 合計42便/週



2024年11月現在

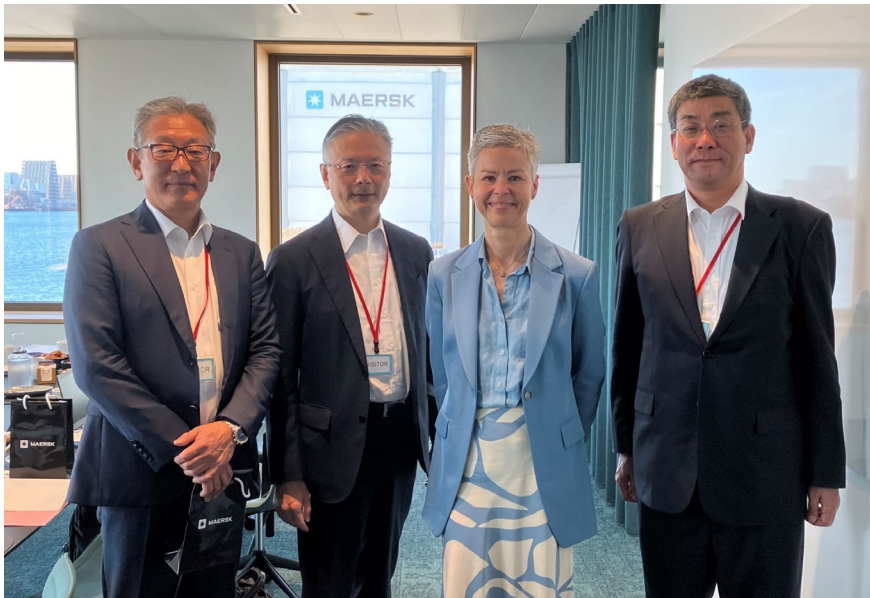
2.集貨に関する取り組み

①国際基幹航路の新規誘致等に資するポートセールス・営業活動

- ・外航コンテナ船社の海外本社(Maersk、Hapag-Lloyd、ONE)にトップセールスを実施するとともに、タイに拠点を持つ日系企業や物流事業者を対象としたセミナーを開催
- ・北米東岸、メキシコ、南米西岸への輸出を行う荷主企業、特に釜山や上海でのトランシップを行っている荷主を中心に、ヒアリング及びトップセールスを実施

◆ 訪問先企業

経団連ロジスティクス委員会、近鉄エクスプレス、SBSリコーロジスティクス、ヤマハ発動機、クボタ、TOYO TIRE、ダイキン工業、アイリスオーヤマ、神戸物産等 ※ 下線はトップセールス



Maersk本社 (2024年5月)



横浜川崎港湾セミナーinバンコク (2024年7月)

2.集貨に関する取り組み

②東日本各港や海外港との連携

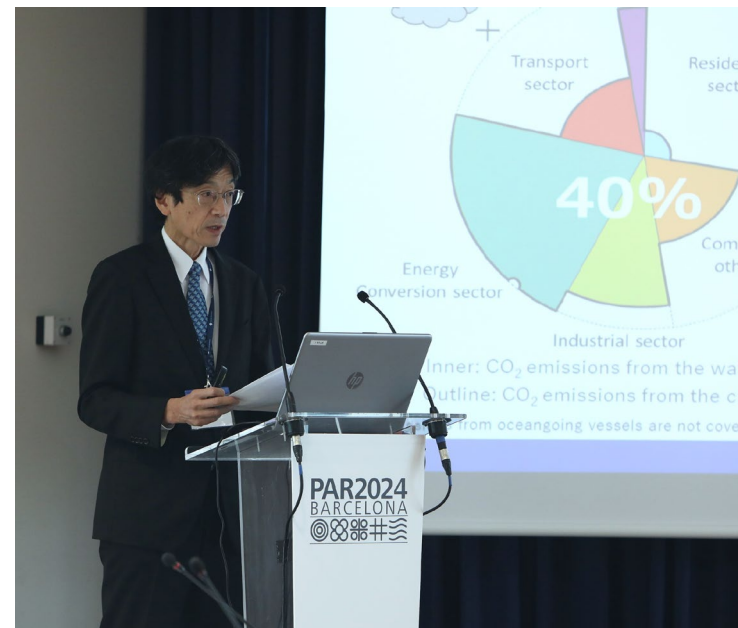
- ・ 横浜港への集貨につなげることを目的に、東日本各港と連携して国際フィーダー航路網をPR
- ・ IAPH World Ports Conference 2024やPort Authorities Roundtableに参加し、各港の代表者等と意見交換を行い、横浜港と川崎港の世界的なプレゼンス向上、人的ネットワークの強化を図った

セミナー等実績

2024年 4月	関西物流展（YKIP出展）	大阪市
8月	いわての港湾利用促進セミナー（関東地整説明）	盛岡市
9月	横浜港～宇都宮鉄道輸送に関する説明会 （YKIP協賛・関東地整説明）	宇都宮市
11月	2024横浜川崎港湾セミナーin宮城 （YKIP主催・関東地整説明）	仙台市
2025年 1月	いわてポートフォーラム2025（YKIP挨拶）	東京都
1月	茨城県北関東セミナー（YKIP発表）	宇都宮市



2024横浜川崎港湾セミナーin宮城

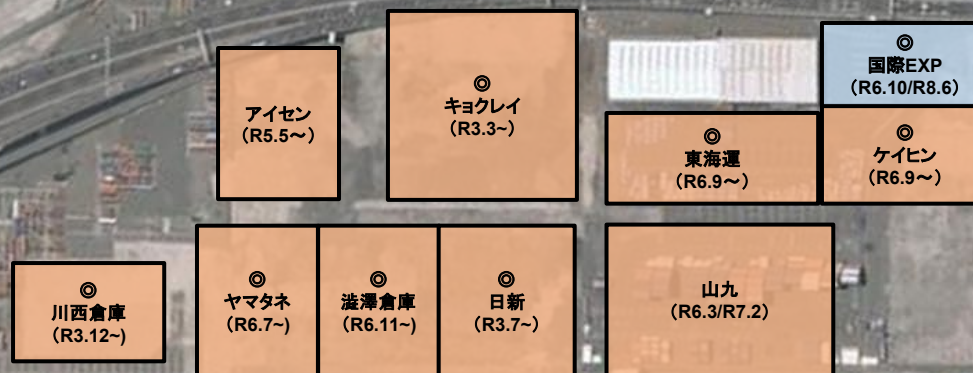


Port Authorities Roundtable
(2024年11月 バルセロナ)

3.創貨に関する取り組み

- 横浜港本牧ふ頭A突堤において、流通加工等の高度な物流サービスを提供するロジスティクス施設の集積に取り組んでいる。2024年6月以降、新たな4つのロジスティクス施設が竣工。
- 本集積拠点において、10棟中8棟が竣工し、国・港湾管理者による無利子貸付支援を活用して建設された拠点施設のうち、2024年9月に稼働を開始した東海運株式会社は約2,880TEU/年の貨物の取り扱いを見込み、2024年10月より着工した株式会社国際エキスプレスは約10,000TEUの貨物の取り扱いを見込んでいる。

本牧ふ頭A突堤ロジスティクス拠点計画図



竣工済
(営業開始年月)

建設中
(着工年月/営業開始年月)

※◎は国・港湾管理者による無利子貸付支援施設
※上図の「山九」の下段は（着工年月/営業開始予定年月）であり、令和7年1月竣工、2月稼働開始予定となっている。

4.競争力強化に関する取り組み

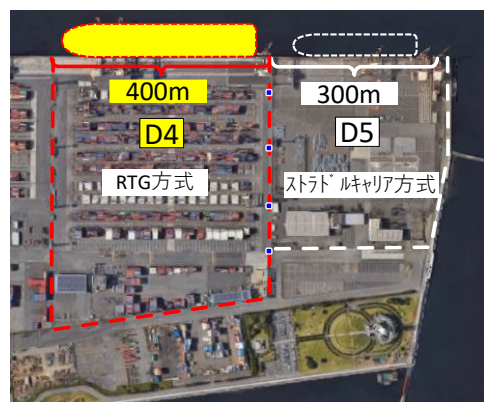
1) 新たなターミナルの整備や既存ターミナルの再編・機能強化

①本牧ふ頭D-5コンテナターミナルの整備

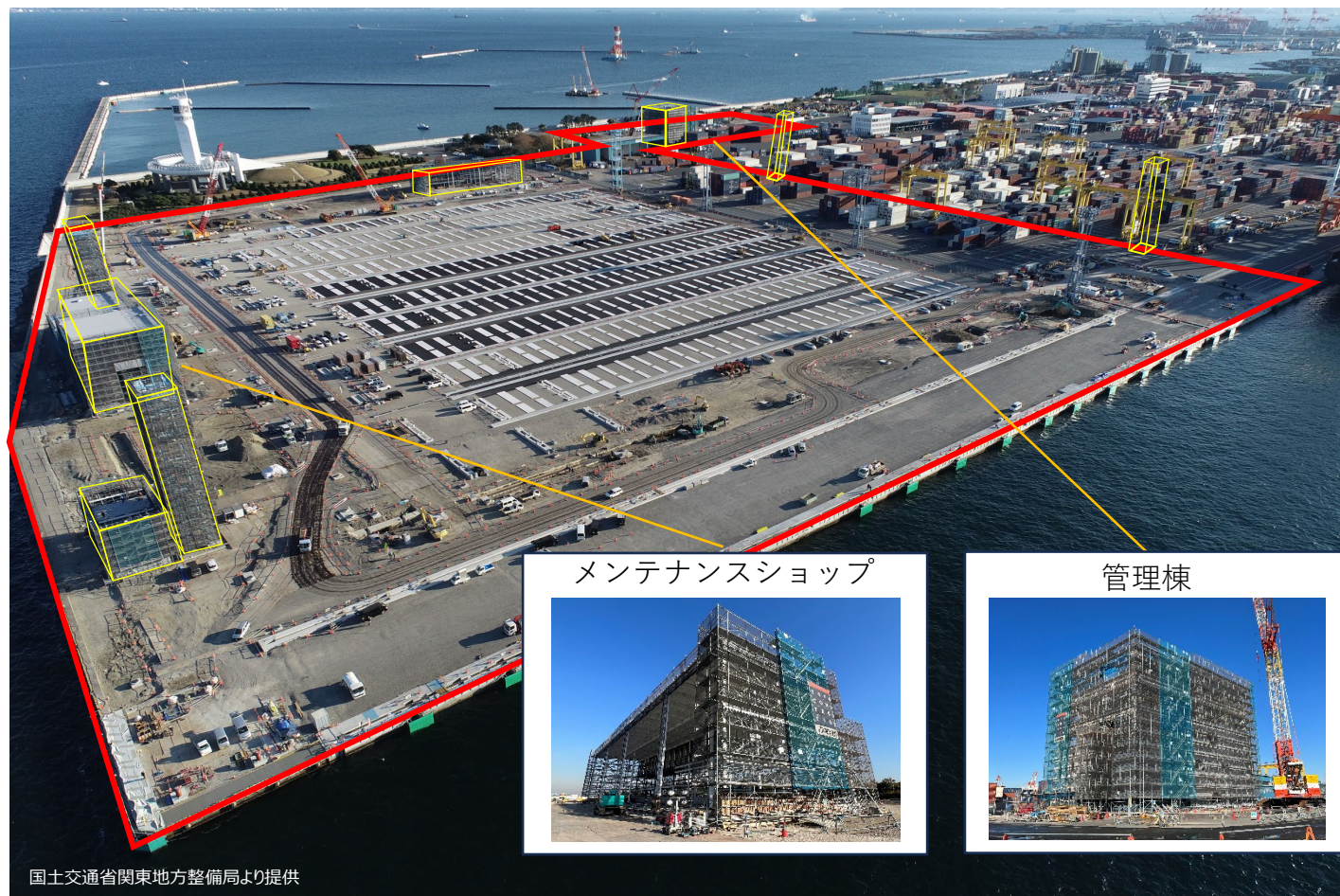
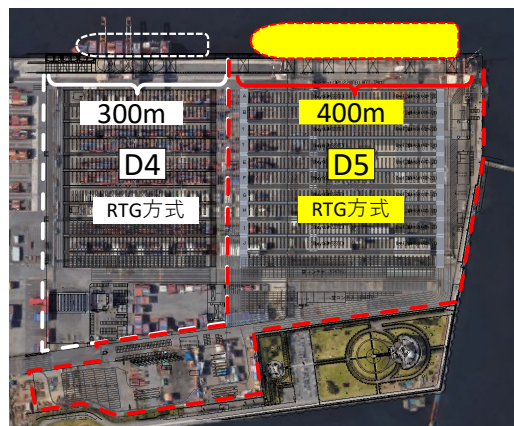
大型コンテナ船の円滑な受け入れを目指し、国直轄事業と連携し、工事を実施中

本牧ふ頭D-5コンテナターミナル整備状況（2024年12月時点）

整備前



整備後



国土交通省関東地方整備局より提供

4.競争力強化に関する取り組み

1) 新たなターミナルの整備や既存ターミナルの再編・機能強化

②新本牧ふ頭の整備

- ・コンテナ船の大型化や貨物量の増加に対応するため、大水深・高規格コンテナターミナルと、高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設を一体的に配置した最新鋭の物流拠点を形成にむけて、国と市が連携し、整備を実施中。
- ・YKIPも、最先端の技術を導入した「我が国が世界に誇る高付加価値ターミナル」とすることを目標に、備えるべき要素について、必要な情報の収集・検討を昨年度より継続して実施。



新本牧ふ頭の護岸構築状況（2024年9月）

4.競争力強化に関する取り組み

2) DXの推進に係る取り組み コンテナターミナルのゲートの高度化

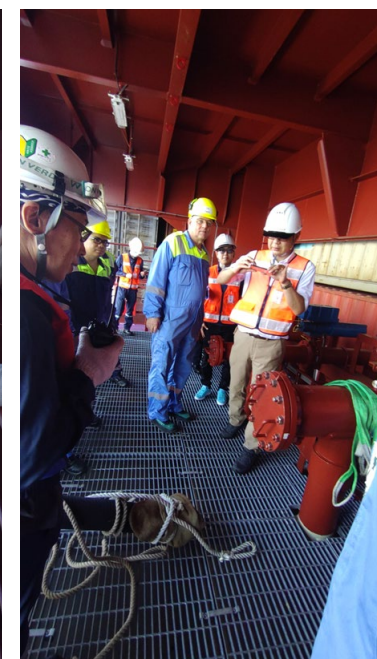
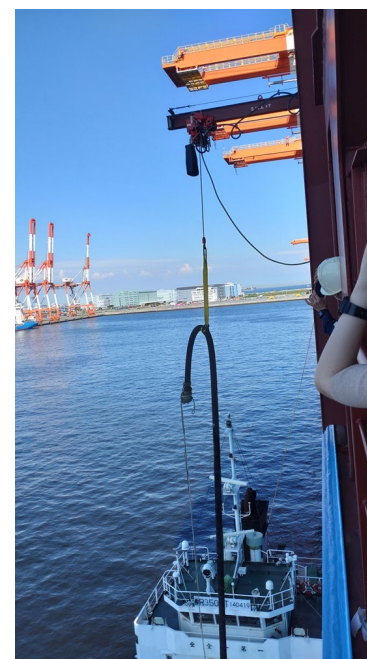
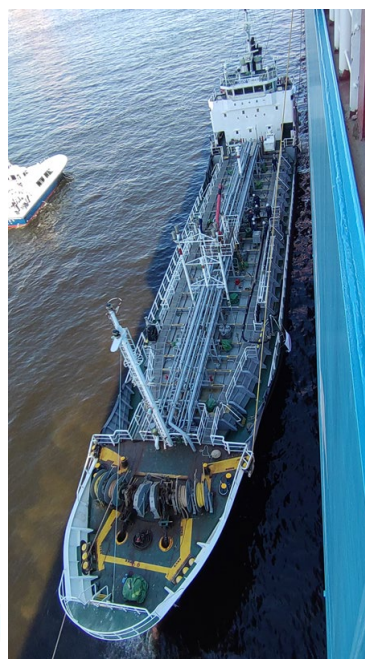
- ・横浜港南本牧ふ頭では2021年3月よりCONPASの常時運用を開始。他コンテナターミナルにおいては、導入に向け、試験運用を実施中
- ・YKIPでは2024年10月より、CONPASとTOSシステムを接続する場合の費用等の補助制度を創設
⇒費用等の2分の1 ※上限あり
- ・制度活用について、現在申請を受け付けたところ



4.競争力強化に関する取り組み

3) GXの推進に係る取り組み 次世代燃料船の普及（グリーンメタノール）

- ・ 2024年9月、マースクAS社、三菱ガス化学株式会社、国華産業株式会社、出光興産株式会社、上野トランステック株式会社、YKIP及び横浜市が共同で南本牧ふ頭にてメタノールバンカリングシミュレーションを実施
- ・ ケミカルタンカーをメタノール燃料コンテナ船に接舷し、ホース接続の課題を含め、メタノールバンカリングのオペレーションを確認
- ・ 国土交通省港湾局が設置する、メタノールバンカリング拠点のあり方検討会に構成員として参加



MAERSK



MITSUBISHI GAS CHEMICAL



idemitsu

UYENO

4) 外航・内航フィーダー航路等の貨物の積替円滑化に係る取り組み

①本牧ふ頭の一体的運営に向けた検討について

本牧ふ頭全体の機能向上を目指し、BCとD-1の実質的な一体的運営（岸壁やコンテナヤードの柔軟な活用など）から取り組みを進めるため、現在関係者との意見交換を実施



4.競争力強化に関する取り組み

4) 外航・内航フィーダー航路等の貨物の積替円滑化に係る取り組み

②鉄道輸送網とコンテナターミナルとの円滑な接続・積み替えに関する実証

- ・国交省関東地方整備局は、京浜港への集貨を促進するため、鉄道輸送網とコンテナターミナルの接続・積み替えに関する実証事業を実施
- ・YKIPにおいては、当該実証事業における課題を抽出し、鉄道輸送とコンテナターミナルの円滑な輸送方策や持続可能な鉄道輸送方策を検討



国土交通省関東地方整備局資料より引用

■宇都宮モデルイメージ図



■輸送期間：令和6年11月～令和7年3月予定
(合計100日間程度)

■輸送量：6両 (1往復/日)

■輸送実績：284TEU (144本) ※2025年1月26日時点



宇都宮貨物ターミナル駅における荷役状況 (2024年12月10日)

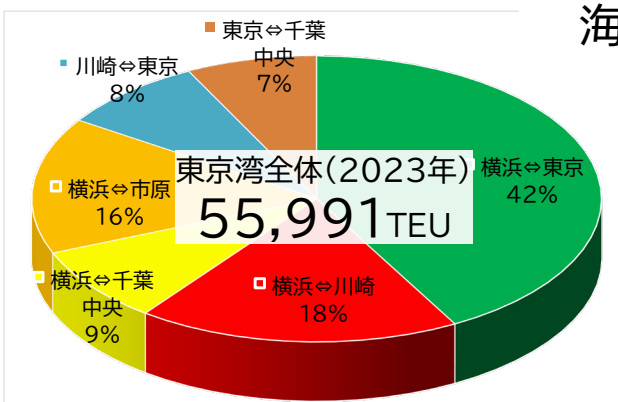
4.競争力強化に関する取り組み

4) 外航・内航フィーダー航路等の貨物の積替円滑化に係る取り組み

③バージ輸送の活用等による東京湾内各港との接続性向上の検討

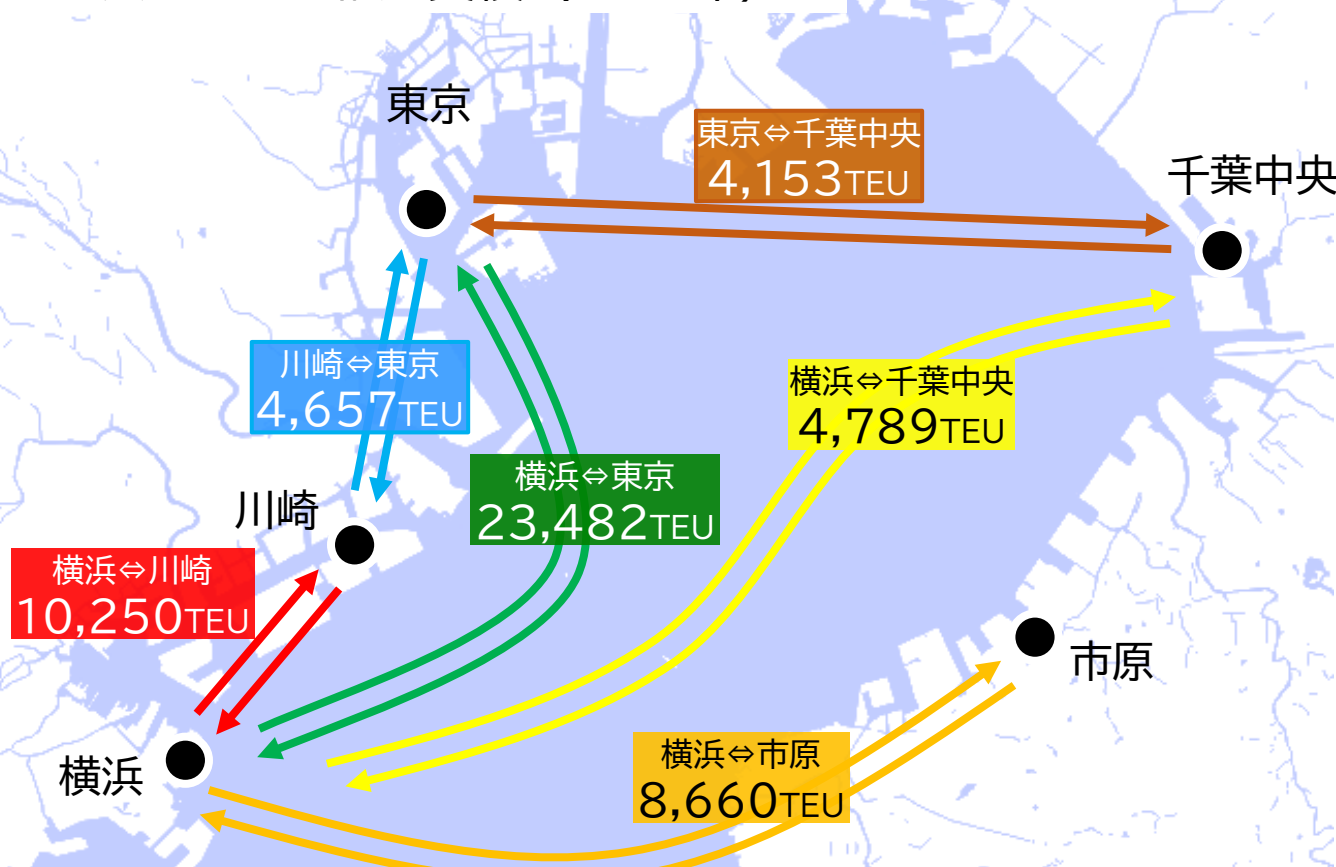
- ・ 心頭間での横持ち輸送や貨物の積み替えについて、トラックドライバー不足や物流の2024年問題を踏まえ、バージ輸送の更なる活用を推進する

海上コンテナのバージ輸送実績 (2023年)



- ・ 84本積載可能(40ft)
- ・ トラック輸送に比べ約80%CO2削減

横浜はしけ運送事業協同組合ホームページより



地理院地図データ (国土地理院) 及び横浜はしけ運送事業協同組合提供資料よりYKIP作成

参考：コンテナ港効率性評価(CPPI)

横浜港は、世界銀行等がコンテナ船の滞在時間を基に港の効率性を評価する Container Port Performance Index (CPPI)において、2020年には世界1位、4年連続で国内1位を誇り、世界的に効率性の高い港として評価されている。

2020		2021		2022		2023	
1	<u>横浜港 (日本)</u>	1	キングアブドゥッラー港 (サウジアラビア)	1	洋山深水港 (中国)	1	洋山深水港(中国)
2	キングアブドゥッラー港 (サウジアラビア)	2	サラール港 (オマーン)	2	サラール港 (オマーン)	2	サラール港(オマーン)
3	赤湾港 (中国)	3	ハマド港 (カタール)	3	ハリファ港 (UAE)	3	カルタヘナ港 (コロンビア)
4	広州港 (中国)	4	洋山港 (中国)	4	タンジェ港 (モロッコ)	4	タンジェ港 (モロッコ)
5	高雄港 (台湾)	5	ハリファ港 (アラブ首長国連邦)	5	カルタヘナ港 (コロンビア)	5	タンジュン・ペラパス港 (マレーシア)
6	サラール港 (オマーン)	6	タンジェメディテラネ港 (モロッコ)	6	タンジュン・ペラパス港 (マレーシア)	6	赤湾港(中国)
7	香港港 (中国)	7	寧波港 (中国)	7	寧波港 (中国)	7	カイメップ(ベトナム)
8	青島港 (中国)	8	ジッダ港 (サウジアラビア)	8	ハマド港 (カタール)	8	広州港 (中国)
9	蛇口港 (中国)	9	広州港 (中国)	...		9	<u>横浜港(日本)</u>
10	アルヘシラス港 (スペイン)	10	<u>横浜港 (日本)</u>	15	<u>横浜港(日本)</u>	10	アルヘシラス(スペイン)